

# 「新型コロナウイルスとの闘い、 在外の学校現場から」

ピュイ・ド・ドーム補習授業校

# 目次

- ① 学校の規模や子どもたちの実態
- ② 現地の新型コロナウイルス事情
- ③ 新型コロナウイルスの対策を講じようと思った経緯
- ④ 実際の取り組み
- ⑤ 苦勞した（している）こと
- ⑥ 喜びを感じた（感じている）こと
- ⑦ 今後への課題

# ①学校の規模や子どもたちの実態

- フランスのおへそにあたる、オーベルニュ地域圏唯一の補習校。
- 所在地はボルビックの採水地で知られるパリュー山を有するピュイドドーム県。
- 2020年4月時点で、小学部13名、幼稚部6名が在籍する小規模校。
- 2013年9月に開校し、2019年4月に日本政府の援助対象となった。

## ② 現地の新型コロナウイルス事情

- 2月下旬から5月上旬まで、リヨン領事部からほぼ毎日メールが送られてきて、感染者数の統計やフランス政府の発表など、多くの情報を日本語で得ることができ、安心感があった。
- 3月12日 大統領演説（この時点でフランス国内感染者数は約2,800人）
  - 3月16日(月)からの保育所から大学まで教育機関の閉鎖を発表。
- 3月16日 大統領演説（この時点でフランス国内感染者数は6,000人超え）
  - 17日からシェンゲン圏への入境閉鎖。テレワーク推奨。
  - 内務大臣から各措置詳細の発表があり、厳格な移動制限措置がとられた。
  - 外出(散歩・買い物含む)の際には、証明書の記入・携帯が必要になった。
  - 証明書がない場合、または証明書に誤りがあった場合は罰金対象となる。

- 4月13日 大統領演説

- 外出制限・休校措置解除は5月11日を目標、という具体的な日程が示された。

- 5月14日 現地校の休校措置が徐々に解除されていった。  
(年長、小1などが優先して開始。)

- 多くの学校が保護者にメールで通学を希望するか確認した上で、休校措置を解除した模様。
- 希望が多い場合には医療従事者や出勤が必要になる家庭を優先させる、  
1クラス1度に授業を受けられるのは15人程度、1クラスを二つに分ける為、  
学校に来られるのは週2回等、各学校でルール設定や動線確保等の試行錯誤が  
うかがえた。

### ③ 新型コロナウイルスの対策を講じよう と思った経緯

- 休校措置に入る前の最後の授業のつもりで3月14日の授業を予定していたが、「子供が集まる行事には部屋を貸せない」と、当日朝、その場で断られる。  
※普段は、現地の国際学園の校舎を借りているが、この日は年に一度の学校開放日であったため公民館での授業を予定していた。
- 各家庭には2週間分の宿題をメールで送り、漢字ドリルは年間計画にそって進めてもらうことを伝えた。
- 休校措置が始まったと同時に習い事も停止。
- 本校は習い事の一つと考えられるため、宿題を出す程度にとどめていた。

- 年中の娘の現地幼稚園の担任からは毎日のようにメールがきて、課題が添付されていた。
- 普段幼稚園でやっているようなペースで課題が送られてきて、これは教育分野が専門外の保護者にはどれだけ負担だろうか…幼稚園でこれなら小学校はもっと大変なのでは…という違和感があった。
- そこで、補習校では、新しい単元を進めてもらうのではなく、子どもが自分の力で毎日少しずつ進められるような課題を目指した。
- そうは言っても、他校の様子が気になっていたのも、仲良くさせてもらっている他の補習校の先生に様子をうかがった。
- 知人の通っている補習校では、休校措置が始まるとともに、オンライン授業に切り替えたと聞いた。

- 4月8日、年中の娘の習い事、市が主催する【工作教室&劇あそび】からメールが届いた。
- 工作の先生から「家でできる季節の工作」のPDFと、劇あそびの先生からZOOMでの「おはなし会」のお知らせで、「習い事だから何もしない」わけではないことを知り、目からウロコだった。
- 英国に留学していた知人の娘が帰国、英国の大学の授業はオンラインで継続しているとの話を聞いた。
- A G 5からの補習校情報交換会の報告とお知らせメールがきた。
- 新聞記事の中でだけ目にしていた「オンライン授業」が、4月上旬になり、一気に身近に感じられるようになった。
- また、5月11日までは確実に休校であることが明らかになったことで、コロナとの闘いは長丁場、9月進級を目指すなら動き出さなくては、という気になった。

## ④ 実際の取り組み

- 4月11日(土) 講師は各クラスの保護者に電話で情報収集。  
「家庭学習の状況」「現地校や他の習い事の情報」  
「ZOOMでのオンライン授業の提案」等。
- 4月13日(月) ZOOMで講師間ミーティング(情報交換会)
  - 使い勝手が良かったため、ZOOMでミーティングをしたが、ZOOM爆撃のニュースが出回っている中、授業で使うにはどうか、という迷いがあった。  
⇒ Googleハングアウトかスカイプの方向でまとまった。
- 4月15日(水) Googleハングアウトでのオンライン授業を提案。

- 4月18日(土) 各クラスで、おためしオンライン授業開催。
  - 大人同伴での動作確認と、子ども達へのオンライン授業の説明とコミュニケーション練習等。
  - マイクのオンオフ等の基本操作はほとんどの子がすぐ使えるようになった。
- 4月25日(土) オンライン授業第一回実施。
  - ※ 幼稚部は授業ではなく、30分間の「オンラインおはなし会」を開催。
- 5月上旬 保護者から授業再開についての情報・ご意見収集。
  - 感染の不安を抱えながらの登校より、オンライン継続希望が多かった。
  - ⇒ 校舎を借りている現地校からの自粛要請もあり、年度末（6月末）までオンライン授業継続を決定。
- 5月中旬 接続に支障が出るクラスは、Googleミートに移行。

## ⑤ 苦労した（している）こと

- 私自身、インターネットやPC関係に疎い方なので、まず「何を使ってオンライン授業を行うか」を決めることに苦労した。
- タイミングよく、パリ日本人学校の校長先生からの情報共有メールの中にオンライン授業の話題があったため、便乗して相談にのってもらった。
- ミートに移行するときも、ミートの使用経験のある保護者に意見を仰いだ。

## ⑥ 喜びを感じた（感じている）こと

- 授業の最中、背景にご家族が映りこむこともあり、常に保護者に見られている・聞かれているという緊張感をもって授業をやるのは新鮮に感じている。
- オンラインといえど、せっかく複数人子どもがいるのだから、一人ではできないことをさせてあげたい、という気持ちで、授業の最初の数分に言葉遊びを取り入れた。
- 真剣なまなざしから笑顔がこぼれると、こちらも嬉しくなる。
- 他の子どもの様子（何を書いているか）がわからない分、何をしたらいいかわからない時などにいつもより意思表示をはっきりしてくれているように感じる。

## ⑦ 今後への課題

- 宿題は、金曜夜までに写真やスキャンデータを送ってもらっている。
- 必要に応じて授業内で扱うようにしているが、コメントなどをつけて返してあげられないのがもどかしい。